

ドキュメンタリー映画上映のご案内

逃げ遅れる人々

東日本大震災と障害者



日 時: 2014年11月9日(日)13時半～15時半
場 所: 武生商工会議所・4F パレットホール
参加費: 無 料

県、および越前市においても原子力防災計画が策定されています。その中でも災害弱者といわれる高齢者や障害を持つ人々（子ども）への避難をどう考えていくのかは原子力防災のみならず越前市の地域コミュニティにとっても今後の重要な課題だと考えます。

そこで、このドキュメンタリー映画を通して、原子力防災計画の“盲点”とも言える障害者の避難について皆さまと共に考えたいと思います。

主催：原子力防災計画を考える越前市民の会

後援：福井新聞社

問合せ・連絡先：原子力防災計画を考える越前市民の会事務局：090 - 7588-5355（大久保）

逃げ遅れる人々

東日本大震災と障害者

- 2012年/日本語/16:9/74分/ドキュメンタリー
- 日本語字幕・選択可(聴覚障害者用)
- 作品 URL: <http://www.j-il.jp/movie/>
- 監督:飯田基晴
- 製作:東北関東大震災障害者救援本部

<作品解説>

障害があるということは、災害時には普段以上のハンディとなる。

2011年3月11日の東日本大震災、未曾有の大災害の中、障害を持つ人々に何が起きたのか？
福島県を中心に、被災した障害者とそこに関わる人々の証言をまとめた。

障害ゆえに、地震や津波から身を守れず、また必要な情報も得られない…。「ここではとても生活できない」「周囲に迷惑をかけるから」と、多くの障害者が避難をあきらめざるを得なかった。そうしたなかで避難所に入った障害者を待ち構えていたのは…。

更には仮設住宅へ入居しても、そこでも大変な不自由が待っていた。原発事故により市民の姿が消えた避難区域には、取り残された障害者が不安な日々を送っていた。大震災に翻弄される障害者と、その実態調査・支援に奔走する人々の、困難の日々。

住み慣れた土地を追われ、避難先で新たな生活を模索する時、涙とともに故郷への思いがあふれる。

マスメディアでは断片的にしか取り上げられない、被災地の障害者を取り巻くさまざまな課題や問題点が浮かび上がる。